

July, 2020

Gender equality & Poverty reduction Vol. 10

新型コロナウイルス (COVID-19) へのレスポンス特集号



ジェンダー平等・貧困削減ニュースレター

Cover Photo: JICA / Atsushi Shibuya

CONTENTS

1. 巻頭メッセージ「新型コロナウイルスの危機下において、ジェンダー平等な社会を実現するために、開発実務者である私たちがすべきこと」: 理事 萱島 信子
2. with/post コロナにおいて、ジェンダー平等と女性のエンパワメントを推進しよう!
3. アフリカ地域におけるジェンダーに基づく暴力 (SGBV) について調査を実施
4. パキスタンからの報告: パキスタン国シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善プロジェクト COVID-19 緊急支援
5. パレスチナからの報告: 日本の知見を活かしてコロナに立ち向かうパレスチナ
6. アルバニアからの報告: アルバニア国小規模農家金融包摂プロジェクト COVID-19 緊急支援
7. ブータンからの報告: 続報! ブータンにおける女性と子どもの視点に立った COVID-19 対応
8. エジプトからの報告: Egypt's experience, Gender mainstreaming in the time of outbreaks
9. ドミニカ共和国からの報告: COVID-19 影響下での女性の能力強化

巻頭メッセージ 新型コロナウイルスの危機下において、ジェンダー平等な社会を実現するために、開発実務者である私たちがすべきこと

このたび、ガイダンスノート「ジェンダー視点に立った COVID-19 対策の推進」が発刊されました。ガイダンスノートは、開発協力の実務者である私たちが、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響による女性や少女が直面するリスクを認識し、ジェンダー視点に立った取組を一層強化するためには何をすべきなのかを具体的に示すことを意図して作成されました。ぜひ、目を通し、日々の業務に活用して欲しいと思います。

COVID-19 の感染拡大は、あらゆる人々の生命や安全を脅かし、その生活に甚大な影響を及ぼしています。しかしながら、その影響は全ての人々に画一的に及ぶものではありません。感染症の蔓延や自然災害の発生といった危機下においては、社会の脆弱性が顕在化し、弱い立場にある人々が一層脆弱な状態に追い込まれる傾向があります。COVID-19 により、固定的な性別役割分業や、ジェンダーに基づく差別や社会規範が根強く残る社会では、女性や少女たちに深刻な社会的・経済的な影響が広がっています。COVID-19 の感染拡大は、貧困の拡大、政府による社会・経済サービスの縮小、女性の教育や健康、経済参加の促進や、望まない妊娠やドメスティックバイオレンス・性暴力、児童婚の撤廃に向けた事業や取組が停滞し、また、人々が直面する危機と恐怖が分断を促し、差別や不平等を助長するというリスクをはらんでおり、ジェンダー平等の達成に向けたこれまでの取組の成果が後退する懸念があります。

そうした中において、私たちは何をすべきでしょうか。全ての分野の支援において、男女別にデータや情報を収集し、女性や少女のおかれている状況や固有の課題やニーズ、男女間の格差の現状やその要因を分析して、女性や少女が直面している固有のリスクの緩和策を進めていくこと。同時に、女性や少女の声や経験に十分に耳を傾け、その能力が地域や社会で十分に発揮されるような支援を進めていくことが重要です。そのためのヒントが、このガイダンスノートには示されています。

ジェンダー視点にたった取組は、「人間の安全保障」及び「誰一人取り残さない」理念を実践し、社会の Build Back Better を進めることを目指すことにほかなりません。COVID-19 の危機を乗り越え、ジェンダー平等な社会を実現するために、ぜひこのガイダンスノートを活用し、一つでも多くの取組を実践して下さい。

(理事 萱島 信子)

■ガイダンスノート「ジェンダー視点に立った COVID-19 対策の推進」

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/materials/COVID-19.html>

※上記サイトにて本ガイダンスノートは英語版も公表予定

ガイダンスノートでは、ジェンダー視点に立った COVID-19 対応を実践的に取り組むために、まず行うべき Quick 分析のチェックリスト、優先取組み課題ごとの支援の視点や具体的な活動メニューを提示をしています。ガイダンスノートの活用方法や実践についての相談がありましたら、JICA ガバナンス・平和構築部ジェンダー平等・貧困削減推進室 (gpgge@jica.go.jp) まで、ご連絡ください。



【ガイダンスノートのコンテンツ】

- 女性と少女が直面するリスク
 - ・感染のリスク
 - ・「性と生殖に関する健康と権利」や保健サービスの後退

- ・女性や少女、子どもに対する暴力
- ・経済の停滞による女性の雇用や生計への打撃
- ・女性の教育の後退、教育格差の拡大、児童婚の増加
- ・意思決定への限定的な参画

●必要なアクション

- ①ジェンダー視点からの Quick 分析の実施
- ②分析に基づく具体的な活動内容の検討と実施

●優先取組み課題

- ①女性の平等な参画と経済的エンパワメントの推進
- ②女性医療従事者の安全の確保 と「性と生殖に関する健康と権利」への対応
- ③ジェンダーに基づく暴力の撲滅
- ④持続的で平等な学習及び教育の機会の確保

With/post コロナにおいて、ジェンダー平等と女性のエンパワメント を推進しよう！ パイロット活動と調査を開始

COVID-19 の拡大を受けて、ジェンダー平等・貧困削減推進室では基礎情報収集・確認調査「新型コロナウイルス感染拡大下における女性・女兒への影響及び対応にかかる情報収集・確認調査」を開始します。

コロナ影響の拡大下においては、ジェンダーに基づく暴力（SGBV: Sexual and Gender Based Violence）の拡大、妊産婦への保健医療サービスを含む様々な医療・保健サービスへのアクセスの欠如、生計手段の欠如など、女性・女兒の生活・生計のあらゆる側面に甚大な影響がもたらされていることが明らかとなってきています。

この調査では、コロナ禍の女性・女兒への影響を調査・分析するとともに、コロナ禍による影響への迅速な対応としてジェンダー平等と女性のエンパワメントを目的とするパイロット活動を実施します。

現在公示中の業務実施契約として実施する調査およびパイロット活動に加えて、JICA 在外事務所のイニシアティブによるパイロット活動の実施も進めていきます。現地政府や民間機関との連携、ローカルコンサルタント企業やローカル NGO との協働、帰国研修員の活動支援など、様々な形でコロナ禍による女性・女兒への影響に対して迅速な支援を行うことを通じて、グッドプラクティスや今後の案件形成につながる教訓を抽出していきます。

ニュースレターではパイロット活動実施の状況なども報告していきますので、ご期待ください。

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 横田 千映子)

アフリカ地域におけるジェンダーに基づく暴力（SGBV）について調査を実施

コロナ感染拡大への対策として外出制限等の措置が取られている影響で、「影のパンデミック」と呼ばれる SGBV の増加が深刻な課題となっています。国連のデータによると、SGBV の形態の一つであるドメスティック・バイオレンス（DV）に関する通報件数は平時に比べて平均で約 3 割増加していると言われています（UN Women 2020）。また、都市封鎖が 6 か月継続した場合、SGBV 被害者が 3100 万人増加するとの試算も出されています（UNFPA 2020）。

アフリカ地域もその例外ではなく、例えば、アフリカ大陸の 51 か国において、感染拡大予防措置として学校が閉鎖され、その結果学校に通えなくなった女兒が退学の危機にある上、児童婚や望まない妊娠、女性性器切除 (FGM) 等の被害に遭うリスクの増加も懸念されています。同地域における SGBV 課題への対応は、新型コロナウイルス対策の一環としても喫緊の取組課題となっています¹。

ジェンダー平等・貧困削減推進室では、2020 年 8 月～2021 年 6 月にかけて、基礎情報収集・確認調査「アフリカ地域ジェンダーに基づく暴力への対応にかかる情報収集・確認調査」を、ルワンダ、ケニア、タンザニア、コンゴ民主共和国、マダガスカルの 5 か国で実施し、コロナ禍の女性・女兒に対する SGBV の状況やニーズ等を調査・分析するとともに、コロナ禍による影響への迅速な対応として、国連機関やローカル NGO 等様々なステークホルダーとの連携・協働によるパイロット活動を行う予定です。本調査を通じて、SGBV の撤廃に向けた効果的な支援のあり方を検討し、今後の案件形成に活用していきます。

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 宇佐美 茉莉)

パキスタン国シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善プロジェクト COVID-19 緊急支援

当プロジェクトでは、シンド州の都市部・農村部の女性グループを対象に、ライフマネジメント能力向上、金融アクセス促進、収入向上を目指したパイロット活動を実施しています。

2020 年 3 月以降、現地では COVID-19 感染拡大により都市封鎖が施行されました。対象村では多くの人が失職したことで収入が途絶え、供給網が寸断されたことで食糧などの生活必需品の入手が難しくなり、女性メンバーたちから日々の生活に困窮しているという SOS が発せられました。

この状況を受け、プロジェクトでは、事業関係者や篤志家などの有志から寄付を集め、生活物資を配給する緊急支援を実施しました。まず、現地スタッフが村の女性たちのニーズを電話で聞き取り、それをもとに米、小麦粉、豆、油、石鹼などの 2-4 週間分の必要物資をまとめた配給バッグを作りました。農村部の対象地 (シンド州北部サッカル) では約 230 世帯 (合計人数 1,750 人)、都市部カラチでは障害者、結核患者、トランスジェンダー、日雇い労働者など困窮者を中心に、約 100 世帯を対象に配給が実施されました。配給と並行し、電話やスマートフォンを通じて、手洗いや社会的隔離などの基本的な COVID - 19 感染防止策に関するメッセージを送信し、受益者の啓発活動を実施しました。この結果、村でも石鹼での手洗いが励行されるようになり、大人数での集会が避けられるようになりました。

また、当プロジェクトでは、これまで支援対象女性たちの収入向上のための活動として、手工芸品の技術指導、マーケティング支援を行ってきましたが、COVID-19 感染拡大の影響で、販路が閉ざされてしまったことから、収入機会が失われています。この状況に対応するため、現在現地での需要が高まっているマスクの制作指導・販売支援を開始しました。村の女性たちは今まで見たこともないマスクの作成に悪戦苦闘中ですが、品質レベルは徐々に向上しています。今後現地のネット通販で販売していく予定です。

今回の支援により、受益者の公衆衛生上の意識が向上したことに加え、これまでプロジェクト活動に非協力的だった男性家族のプロジェクト活動への理解と協力が強まりました。感染拡大収束の見通しが見えない状況が続きますが、今後はパキスタン政府による支援スキームへの橋渡しや収入向上活動の支援を継続していきます。

¹ パンデミック後 10 年間で、FGM が 200 万件、児童婚が 1300 万件増加するとの予測 (UNFPA, 2020) もある。



(左) 社会的距離を保ちながら食糧・生活物資の緊急配給を受ける女性たち
 (中央) マスクの試作に取り組む女性グループのリーダー
 (右) 試作をしたマスクを購入した都市部の少女

(かいはつマネジメント・コンサルティング 本田賀子様ご提供記事)

帰国研修員の活躍!

日本の知見を活かしてコロナに立ち向かうパレスチナ

2020年3月上旬より非常事態宣言下となったパレスチナ自治区では、外出制限や営業停止といった環境下でのジェンダーに基づく暴力(GBV)が懸念を集めている。6月上旬までに減少していたCOVID-19感染者数は、同月中旬以降から再び増加傾向にある。現地NGOの調査によれば、パレスチナでは約20%の回答者が家庭内暴力の増加を認めており、外出制限や店舗閉鎖が長引くにつれて更なる増加を予期する声が回答者の70%を超えた(2020年4月のパレスチナNGOジュズール協会による西岸地区800人に対する電話インタビューより)。

そのような中、パレスチナ自治区の社会開発庁は、家庭内暴力に苦しむ女性のためのホットラインを開設して、増加するニーズに対応している。相談者の受話器の向こう側にいるのは、JICA帰国研修員である。JICA九州での「行政官のためのジェンダー主流化政策」(2020年1月~2月)で得られた知見をホットライン相談に活かしているという。「研修を受けて学んだことがパレスチナでのGBV被害女性を助けるのに役立つと感じた」と帰国研修員のひとりタイード・ドイアイビー同庁職員は話す。GBV被害の声をカウンセラーとして傾聴しつつ、管轄省庁の職員として警察や保護施設との連携体制をとりながら、被害者取るべき行動をアドバイスしている。

女性保護ホットラインの受話器を持つ元帰国研修員でカウンセラーのタイード・ドイアイビー社会開発庁職員

コロナ禍におけるGBVが世界的に懸念される一方で、GBVの報告件数が落ちる現象が一部で生じているが、これは国際機関やドナー機関の活動制限が背景にある。実際、パレスチナ難民キャンプを管轄するUNRWAが連携機関とのとりまとめを通じて集計したところ、ヨルダンのキャンプ内でのGBV報告件数は68%減少した(2020年5月UNRWA報告)。そうしたなかにあっては、GBV被害者の保護・救済の受け皿として現地政府の担う役割は尚更大きい。

「ホットラインに相談が来たり、警察へ通報が入ったりするのは氷山の一角に過ぎない。現状の行動制限下では専業主婦が被害者になりやすく、保護や支援の手をさらに広げていきたい」——帰国研修員の奮闘は続く。



(JICAパレスチナ事務所 Hana Barahmeh、川嶋 淳司)

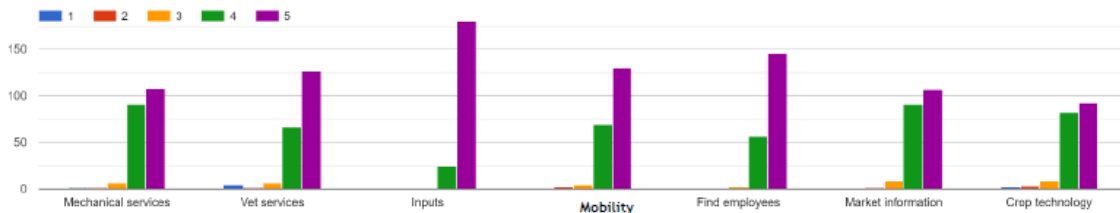
アルバニア国小規模農家金融包摂プロジェクト COVID-19 緊急支援

2017年より実施中の「アルバニア国小規模農家金融包摂プロジェクト」では同国の小規模農家の生計向上を目標に、農家のニーズに合った金融商品と農業サービスの開発・提供を行っています。人口の38%を貧困層(5.5米ドル/日)が占め²、その大半が小規模農家であるアルバニアでも今般のCOVID19の影響は大きく、多くの農家が困窮の声を上げています。プロジェクトではCOVID-19による小規模農家への影響をより詳細に把握するべく、カウンターパートであるFED invest 貯蓄融資協会会員のうち、年収1,000,000アルバニアレック(約1,000,000円)以下の小規模低所得農家を対象に質問票調査を実施し、計205件の回答を得ました。その結果判明した主要な点をご紹介します。

① 農業投入財の入手や農業関連サービスへのアクセスが困難となった

全体の9割の農家がCOVID-19の影響により移動が制約されたり流通がストップしたりしたことにより投入財の入手が非常に難しくなったと回答しました。また、作業員を探すことや、農業機材や獣医サービスへのアクセスも難しくなったという声も多く聞かれました。

B3 Due to COVID 19, did you have any difficulties in accessing the following? 1 not at all; 2 minimum; 3 slightly; 4 clear impact; 5 significant impact

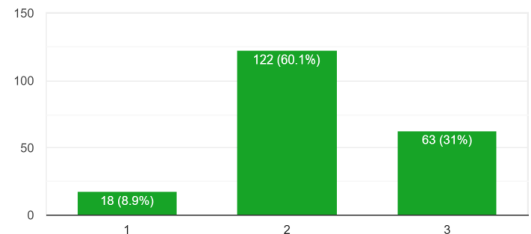


(出典：プロジェクトチーム作成)

② オンライン金融取引への関心が高まった

最新の世銀調査では電子送金を利用したことがあるアルバニア国内の成人の割合はわずか4%³でしたが、調査対象の9割以上の農家がインターネットによる電子支払に関心を表すようになりました。今般のCOVID-19により外出の禁止や対面でのサービスが難しくなったことが影響していると考えられます。

C4. Having had this COVID19 experience, are you now willing to make payment through the Int...Not at all 2-Maybe 3-Of course 203 responses

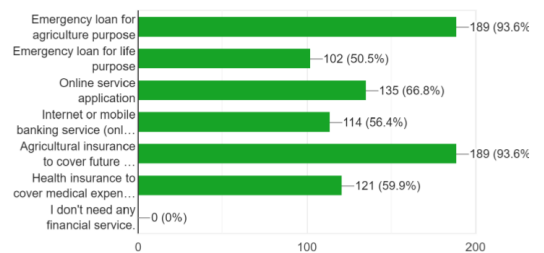


(出典：プロジェクトチーム作成)

③ 緊急融資と農業保険への顕著なニーズ

ほぼ全ての回答者がCOVID-19の影響により収入が減少する見込みだと回答しました。収入の減少に対処するための新たな金融サービスとして、事業継続のための緊急融資や損失を補填するための農業保険を希望する声が多く聞かれました。

C5. What kind of financial service would you require from FED invest in order to overcome the current COVID19 situation? 202 responses



(出典：プロジェクトチーム作成)

こうした結果から、COVID-19の影響を受けた小規模農家の農業生産活動を支援する策として、特に上記①にフォーカスを当てた農業投入財の支援を行う予定です。本取組みは、プロジ

² Macro Poverty Outlook Spring 2020 (世界銀行、2018)

³ The Little Data Book on Financial Inclusion 2018 (世界銀行、2018)

エクトによるコアバンキングシステムの導入によって可能となった当座預金口座を活用した決済の普及や、農業技術や情報を提供する ABA センター（AgriBusiness Assistance、オンラインプラットフォームを含む）の活用を促進しつつ、COVID-19 の小規模農家の農業生産を後押しするもので、COVID-19 下においてより重要性が増している金融包摂、およびデジタルトランスフォーメーション（DX）の促進に貢献する方法を実践していきます。

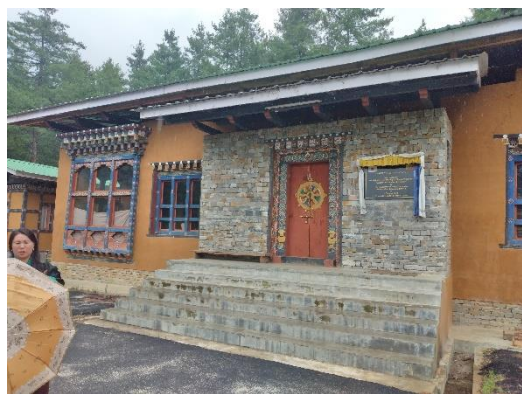
（かいはつマネジメント・コンサルティング 弓削田高大様ご提供記事）



続報！ブータンにおける女性と子どもの視点に立った COVID-19 対応

前回のニュースレター（Vol.9）で、ブータン事務所が女性と子ども国家委員会（NCWC）と取り組んだ、女性と子どもの視点に立った COVID-19 対応策をご報告しました。NCWC はその後、「Gender and Child Protection Emergency Preparedness and Response to Covid-19 Contingency Plan」を発表しました。感染者第一号の発覚からわずか1か月半後のことでした。NCWC が開発パートナーや NGO との協働のもと、同緊急対応計画の実施を進めるなか、JICA は NCWC と協議を行い、15 のサブプロジェクトを進めていくことについて合意しました。今回はこのなかで、実施検討が進んでいるいくつかの案件をご紹介します。

在宅勤務や外出自粛、休校措置が継続されるなかで家庭内暴力（DV）のリスクが高まっていることを背景に、ブータン唯一の DV 被害者向けのシェルターに必要な物品を供与する計画が動いています。シェルターを運営する NGO、RENEW⁴によれば、今年は昨年 비해 GBV の報告数が約 3.5 倍となっており、シェルターではすでに入居希望のウェイティングリストが発生してしまっています。そこで、王室の支援により増設され、7月末に完成予定の施設に、家具や寝具、生活用品を供与することによって、急増している入居希望者のためのタイムリーな受け入れキャパシティ拡充に貢献することとしています。被害者の緊急保護だけでなく、メンタルケアなど一歩踏み込んだサービスが提供できるような施策も検討しています。シェルターには、日本大使館の草の根無償で建設した技術訓練センターがあるため、収入向上活動への支援など、同協力とのシナジーを生むような支援方法を模索しています。



日本大使館の草の根無償で建設した技術訓練センター



JICA と RENEW のスタッフ。日本大使館の草の根無償で建設した技術訓練センターにて

⁴ <https://renew.org.bt/>

ブータン政府は、教員や休職中の若者などに COVID-19 に関する基礎知識や感染防御方法などに関する訓練を行い、「DESUUP⁵」と呼ばれる市民ボランティアとして医療従事者や政府による COVID-19 対応のサポート役を任命しています。閉鎖された国境付近の最前線で人や物資の往来を監視するためのパトロールに携わる DESUUP に対し、救急箱などの必要な物資を提供することが計画されており、女性ボランティアのニーズを踏まえて支援物資を吟味しています。

これらサブプロジェクトの実施を進めるにあたってブータン事務所では、日本人スタッフに加え、普段はジェンダー分野の案件を直接担当する機会の少ないナショナルスタッフを4名、サブプロジェクトごとに担当者として任命しました。これにより、サブプロジェクトの円滑な実施対応ができていることに加え、事務所全体としてジェンダー分野課題への取り組みに関する意識が向上していると感じています。

3月、COVID-19の感染発覚直後に JICA とともにアクションをおこしたことをきっかけに、NCWC は、COVID-19 影響下の新しい社会情勢のなかで、積極的にリーダーシップを発揮し、女性と子どもの権利と保護に取り組みはじめています。ブータン事務所は、NCWC が取り組む COVID-19 緊急対応計画の実現に向けて、UNDP や UNICEF、Save the Children などの開発パートナーや、ブータン国内の NGO と密にコミュニケーションをとりながら取り組んでいきます。サブプロジェクトの実施を通じて、NCWC 自身が適切かつ効果的な女性と子どもの保護とケアを実践するための能力を強化することが何より重要であると考えます。よって、スピーディーな実施も重要ですが、成果重視の慎重な姿勢も忘れず、女性と子どもの真のニーズを見極められているか、その充足のために最適なアプローチをとることができるか、常に議論を絶やさずに NCWC のカウンターパートや自分たち自身に問いかけ続けることを各担当者が日々心掛けていきます。

(JICA ブータン事務所 小熊 千里)

帰国研修員
の活躍！

エジプトからの報告：Egypt's experience, Gender mainstreaming in the time of outbreaks

Going back to the exact moment, with a bittersweet sense after boarding the plane on my way to my beloved country Egypt, leaving a new favorite country with a new experience, knowledge and friends, seems like ages have been passed, where a new world, new normal and unfortunately new priorities have been raised. The world had changed and what had started as some countries' crisis, had become 'Everybody's crisis'

The Covid19 Pandemic had hit as all, the world had turned upside down, old fears and forgotten polices for preparedness became our number one concern. Personally, it was a moment of assuring and clarity for me that we are on the right path where gender mainstreaming and gender issues can never be postponed and will never cease to matter, the need for gender lens in social, economic and health aspects of the pandemic, is clearly obvious.

I cannot deny that I have faced short moments of hesitations and doubts that what I have acquired and learned during my time in the training in Japan and my future plans will all be in the bottom list of priorities and on hold and gender mainstreaming will be a forgotten policy however, the moment had vanished and a concrete belief and conviction motivated me to utilize this accumulated knowledge in the upcoming battle the world is witnessing.

⁵ <https://desuung.org.bt/>

Nothing is wasted and there is no better time to do just your work as now, that had become my Motto, I was fortunate to be a part of the “JICA Training and Dialogue Program: Gender Mainstreaming Policies for Government Officers”, The program helped me tremendously in pursuing what can fit the Egyptian context in contributing in designing a proper response to gender issues amid the covid-19 pandemic. it had become a guiding tool which included topics of sharing challenges in gender mainstreaming, violence, reproductive health and rights, education, disaster risk reduction, gender budgeting , the efforts and activities done locally through the government, organizations and centers and ending with formulating my action plan, the amount of learning and knowledge shared was impressive and was of a real help in my next steps which somehow unforeseen prepared me to our new normal “ the impact of covid19 and its repercussions and implications toward women and girls”

I was proudly and humbly a part of the process of what had become the first country to issue **Egypt’s rapid response to women’s situation during the outbreak**; the policy paper aimed to assure all women needs are mainstreamed into the government policies taken to counter the virus. It also emphasizes on implementation of mitigation and response policies to ensure the protection of women and girls during this crisis, it addressed pillars on short and medium term responses a) impact on human endowment (health, education and social protection); b) women’s voice and agency (eliminating violence against women, and women’s leadership and representation); c) impact on economic opportunities for women, and d) promoting data and knowledge.

It did not paused here, we have also developed a unique tracker to monitor all issued policies and measures, document them & support complementing those policies with solid programs & initiatives. From the start of the outbreak till the beginning of the first week of July, the tracker monitored 106 policies/measures/procedures taken by the Government to contain and control the spread of the current covid-19; that are responsive to Egyptian women.

Many efforts have reflected the gender mainstreaming polices taken at the governmental level moreover where I work and belong ‘National Council for Women’, huge efforts beside the policy paper and women tracker had been realized such as an outreach for over one million women benefited from the awareness raising campaigns in the different governorates of Egypt ,numerous social media campaigns had been conducted , the National Council for women’s complaints office has worked to receive inquiries/complaint and necessary action was taken to refer them to the concerned entities timely & effectively and women’s representation in government decisions in the design of COVID-19 responses and policies were also present.

I could go forever listing what have been achieved in the last couple of months ensuring that gender mainstreaming polices should not and could not be forgotten even in the time of crisis because our strides and progress toward better equal world and continuing the agenda of leaving no one behind will remain at stake and, let me in the end rephrase the Japanese proverb "Dawn doesn't break without a woman "to **“Dawn and better future do not break without our gender mainstreaming work”**



(Lana Abou Zeid – Egypt, Legal and Gender Expert & Legislative Committee Coordinator, Technical Office of the President, National Council for Women (NCW), Ex trainee)

ドミニカ共和国からの報告：COVID-19 影響下での女性の能力強化

～社会変革のための女性の経済的エンパワーメント～



中米統合機構（SICA）加盟国向け課題別研修「ビジネスを通じた女性の経済的エンパワーメント」の帰国研修員である、ドミニカ共和国の Judith Cury さんが代表を務める NGO「Prosperanza」では、COVID-19 の影響下にある今年の 4 月から現在までにドミニカ共和国の 14,117 人の女性に、IT を活用した無料の教育機会を提供しました。

ドミニカ共和国の女性に大きなインパクトを与えているこのような取組から学ぶべく、中南米・カリブ地域の帰国研修員連盟

（FELACBEJA）では、7 月 9 日（水）に Judith さんを講師とするオンラインセミナーを開催し、計 84 名の帰国研修員や事務所関係者が参加しました。

Prosperanza は、2017 年に Judith さんが設立した NGO で、ジェンダー平等と女性の経済的エンパワーメントを実現するため、女性への機会を広げ、女性が自らの持つ能力を開花させ、尊厳を持って生きることを目指しています。特に、貧困層出身の女性が、教育面や金銭面の状況を改善しながら、持続的に経済的エンパワーメントを図り、経済的に自立することを支援しています。その手法の特徴は、官民が連携した形で、女性に学びの機会を提供すること、起業とその拡大を支援すること、金融や市場へのアクセスを改善することにあります。

Prosperanza は、設立以来ドミニカ共和国の全国各地で、手工芸品の制作や起業に向けたアドバイスなど、対面式の研修やセミナーを実施し、女性が制作した商品を販売するオンラインショップの運営なども行ってきました。しかし、今回の新型コロナウイルスの流行の影響を受け、これまでに行ってきた活動をオンラインで行う方向へシフトし、マドリッド通信制大学や、北米・中南米を中心に IT 技術を活用した教育を推進する民間企業の Territorium と協定を結び、これまでに計 60 のオンライン研修・セミナーを開催してきました。参加者はドミニカ共和国の女性だけでなく、中南米地域の 11 か国および欧米から 263 人の参加の参加もありました。

連携先が有するプラットフォームを使いながら、SNS や Google Form、Zoom、WhatsApp などのアプリケーションを活用し、女性たちが家庭にいながら質の高い研修を受け、零細ビジネスの起業、特に人々の生活の質の向上につながるような、社会変革を目的とした取組を始める動機付けをしてきたと言います。また、このような場に参加することは、コロナ禍による不安やストレスを感じるが増えた女性たちにとって、精神的にも良い影響があります。



「オンラインの研修は女性の成長につながります。パンデミックの状況において、女性はその被害者になるのではなく、変革を起こす主体として、家族や国を守ることができます。そのような信念の下、零細ビジネス起業のための能力強化に力を入れてきました。」と Judith さんは言います。また、対面式では一か月あたり平均 450 名の女性へのインパクトであったところ、コロナ影響下の三か月においては全国

28 県から毎月平均 4,789 名が参加していることを挙げ、オンラインでの教育の力を強調しました。

Judith さんは 2019 年度の課題別研修に参加しました。日本で様々な分野の女性起業家を訪問したことや、日本で推進されている農林水産業の 6 次産業化支援のコンセプトに加え、食品加工や商品化の方法、地方ブランドの創設、それに対する地方自治体による支援等について学んだことが、COVID-19 影響下においてオンラインの研修を通じた女性への継続的な支援の提供に生かされていると話しました。

このような Judith さんの取り組みに対し、FELACBEJA のオンラインセミナーでも共感の声が多く聞かれ、ニカラグアやボリビア、パナマの参加者からは自国でも同様の取り組みを行いたい、との声もありました。新しい社会・経済への適応、社会変革が求められている中、中南米の女性の活躍が更に期待されます。

(JICA ドミニカ共和国事務所 ナショナルスタッフ Doris Holguin & Laura Mella)

<参考資料（西語のみ）>

●2020 年 4 月～6 月の Prosperanza の活動記録 (Boletín Informativo) については、下記をご覧ください。

【4 月】 https://www.canva.com/design/DAD4D2ju6x4/gd-VTpBhBt4xbrl_msWjaQ/view

【5 月】 <https://www.canva.com/design/DAD7tEPHq5Y/RoBVariUAAADkRIId7hpSQw/view>

【6 月】 <https://www.canva.com/design/DAEA69PNn64/IRjnxxtnuonM-balaz5W-A/view>

● (JICA 内部向け) Judith さんの発表資料は、[こちら](#)をご覧ください。

以下は上記記事の西語版です。(Abajo encuentren la versión en Español)

Formar para transformar : Contribución al empoderamiento económico de la mujer en tiempos de COVID



Con la formación a distancia y el uso de la tecnología junto a una estructura nacional e internacional de profesionales voluntarios, Prosperanza impactó desde abril hasta julio a 14,117 mujeres en República Dominicana.

Con la intención de conocer el alcance de este impacto, la Federación Latinoamericana y del Caribe de Asociaciones de Ex Becarios del Japón (FELACBEJA), invitó a Judith Cury, con la participación de los miembros de la Asociación Dominicana de Ex becarios en Japón (ADEJA), ex becarios de los países Latinoamericanos y del Caribe y funcionarios de las oficinas de JICA de la región. Fue impartido una conferencia internacional para mostrar a otros países el éxito del modelo Prosperanza en la capacitación en tiempos de la Pandemia para el empoderamiento económico femenino.

La señora Judith Cury es presidenta de la Prosperanza, una organización sin fines de lucro fundada en 2017, que busca la ampliación de oportunidades para las mujeres, potenciando sus talentos para el logro de una vida digna, hacia el empoderamiento económico de las mujeres y la igualdad de género. La organización tiene como objetivo reducir la pobreza, fomentar el empoderamiento económico sostenible de las mujeres de origen humilde, impulsándolas a mejorar su nivel educativo, financiero y fortalecer su independencia económica: a través de iniciativas educativas, el fortalecimiento de sus microempresas, acceso al financiamiento y al mercado con la integración de las instituciones públicas-privadas.

Desde antes del COVID-19, la organización ha contribuido al empoderamiento económico de la mujer dominicana, formando a voluntarios facilitadores e impartiendo talleres presenciales a gratis en 16 áreas distintas incluyendo manualidades, tecnología, tips para emprendimiento, entre otros, en 21 provincias del país. Ahora habiendo cambiado la modalidad bajo afectación del COVID-19, firmaron convenio con la Universidad a Distancia de Madrid y con Territorium Latinoamérica, y fueron dictados 60 talleres virtuales en total por 3 meses desde abril hasta junio 2020. La maximización y difusión de los programas en las redes sociales, plataformas y aplicaciones como Google Form, Zoom y WhatsApp han sido las vías que han implementado para continuar con su propósito de llevar educación de calidad a los hogares, impulsar el emprendimiento, elevar el bienestar emocional y aplicar proyectos sociales que mejoren la calidad de vida de las personas. Las participantes no se limitan a las mujeres dominicanas sino a 263 mujeres en 11 países de Latinoamérica y 4 países de Europa.

La señora Judith participó en el curso de JICA en 2019. Los aprendizajes durante su curso en Japón le ayudaron a crear las plataformas de educación virtual y seguir aportando a la mujer en estos tiempos de Pandemia. Fueron sus aprendizajes en las visitas a diferentes emprendimientos de mujeres y a aplicación de un concepto de apoyo a la Sexta Industria como política de desarrollo agrícola, fabricación de alimentos, entre otros. Otro aprendizaje fue la forma y empeño para la adecuada comercialización, el apoyo local y el apoyo en el desarrollo de la marca local.



"Creemos en la educación en línea para apoyar el desarrollo de la mujer y durante esta pandemia nos hemos enfocado en desarrollar la capacidad de resiliencia de los pequeños negocios para mantener la estabilidad económica de las familias. Las mujeres pueden ser agentes de cambio para sus familias y el país en lugar de víctimas de la crisis sanitaria y económica", indicó la ingeniera Cury. En su presentación,

resaltó el poder de la educación en línea, comparando el dato que fueron 4,789 mujeres al mes formadas con educación virtual en 28 provincias del país y 12 países extranjeros mientras en los tiempos antes del COVID-19, eran 450 mujeres impactadas con capacitación presencial en un mes.

Al finalizar el encuentro virtual, varios países se motivaron a conocer en más detalle de los trabajos realizados por la becaria con el fin de evaluar la posibilidad de replicar, entre esos países están: Nicaragua, Panamá y Bolivia.

Link de los boletines informativos mensuales de Prosperanza (desde abril hasta junio 2020)

【abril】 https://www.canva.com/design/DAD4D2ju6x4/gd-VTpBhBt4xbrl_msWjaQ/view

【mayo】 <https://www.canva.com/design/DAD7tEPHq5Y/RoBVariUAAADkRId7hpSQw/view>

【junio】 <https://www.canva.com/design/DAEA69PNn64/IRjnxxtnuonM-balaz5W-A/view>

(Escrito por Sra. Doris Holguin, Program Officer, JICA República Dominicana
Sra. Laura Mella, Program Officer, JICA República Dominicana)

ジェンダー/金融包摂案件、関連広報のリンク

・カンボジア「女性の経済的エンパワーメントのためのジェンダー主流化プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/cambodia/023/index.html>

・ベトナム「被害者支援及びカウンセリングのための人身取引対策ホットライン運営強化プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/047/index.html>

・ミャンマー「人身取引被害者支援能力向上・協力促進プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/032/index.html>

・パキスタン「シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善支援プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/pakistan/006/index.html>

・アルバニア「小規模農家金融包摂プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/albania/003/index.html>

・ホンジュラス「金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/honduras/005/index.html>

・ベトナム「ジェンダーの視点に立った金融包摂促進支援プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/053/index.html>

・パプアニューギニア【JICA aims to promote gender-responsive teaching and learning in mathematics and science in PNG】

https://www.facebook.com/permalink.php?id=756578997714721&story_fbid=2435905059782098

・アンゴラ【アンゴラ共和国：建設分野で輝く女性指導員】

<https://www.facebook.com/jicapr/posts/2250757948293673/>

終わりに

今回のニュースレター臨時号では、新型コロナウイルスの女性・少女への影響とその対応に関する取組をご紹介します。読者の皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。(連絡先：gpgge@jica.go.jp)

(編集：京 由香)

(デザイン：泉 貴広)